



「未来を拓く心豊かな人づくり」の実現に向け

石川県教育委員会教育長 田中 新太郎

石川県社会教育協会の皆様におかれましては日頃より、本県の社会教育及び生涯学習の振興に多大なるご支援をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。また、昭和二十三年の貴協会発足以降、長きに渡り、社会教育に関する調査及び情報収集、講演会の開催、機関誌の発行等様々な取組を続けてこられたことに深く敬意を表する次第であります。

近年、グローバル化の進展やICT化の加速などにより社会は目まぐるしく変化し、学校や家庭においても、いじめ問題の深刻化や地域とのつながりの希薄化、教員の急激な世代交代など様々な課題が生じています。加えて、北陸新幹線敦賀延伸や東京オリンピック・パラリンピックの開催、本格的な人口減少時代到来による地方創生の動きなど、今後、本県を取り巻く環境は大きく変化してまいります。

日進月歩の勢いで新しい知識や技術が生み出され、社会環境が予想を超えるスピードで変化しており、教育もその渦中に巻き込まれ、新しく変化していくものを追い求め、原点や本質を見失ってしまう危険性があります。そのような中においても社会教育の原点は、「不易流行」という言葉のとおり、いつの時代になっても、子供からお年寄りまですべての人が心豊かに暮らすことができる地域社会を創造していくこと、そして、そのための学びの場を創り出していくことです。この原点に立ち返り、「不易」を追求し、受け継いでいくとともに、「流行」を見極め新たに創出していくことが大切であると考えています。

こうした中、県では昨年三月に第二期石川の教育振興基本計画を策定いたしました。この計画では、学び続ける意欲を持ち、多様化する課題に対して主体的に解決できる力を身に付けた、

次代のいしかわの人材を育てていくため「未来を拓く心豊かな人づくり」を基本理念に掲げ、「地方創生の動きを踏まえた地域活性化に貢献できる人材の育成」「教員の世代交代を踏まえた優秀な教員志望者の確保と人材の育成」「家庭教育支援の推進や県立図書館の移転・建替え」「東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えた取組の充実」などを盛り込み、今後五年間における本県教育のめざす姿と施策の方向性を示しています。

特に社会教育、生涯学習関係では「社会全体で家庭や地域の教育力の向上」「生涯にわたり学び続ける環境づくりの推進」を目標に掲げ、家庭の教育力の向上や学校と地域の人々との交流を通じた地域の教育力の向上、心の教育の充実、全世代を通じた学びの機会の充実などを主な取組として、社会教育協会の皆様にもご協力いただいている「グッドマナーキャンペーン」をはじめ、親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」のほか、今年度から、新たに家庭や地域の教育力向上の推進に取り組むため、「いしかわ家庭教育支援プラットフォーム事業」や子供のやり抜く力や自制心などを育む「学びの態度育成事業」にも取り組んでいるところであります。

県といたしましては、第二期石川の教育振興基本計画の実現に向け、市町や関係団体とも連携を図りながら、様々な事業を展開して社会教育・生涯学習の振興を図って参りたいと考えております。

貴協会をはじめとする社会教育関係団体の皆様には、今後も石川のより良い社会教育の充実のため、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

視 点